

# 民有林と連携したエゾシカ被害対策

## ～根室地域におけるエゾシカ捕獲等の取り組み～

### 【現状・課題・目的】

根室地域における農林水産業の被害を軽減するため、エゾシカ対策を行う各実施主体と連携したエゾシカ捕獲に取り組んでいます。

しかし、被害は横ばいの状況にあることから、より一層の取組が求められています。

### 【これまでの取り組みや成果】

当署において平成26年度から囲いワナによるエゾシカ捕獲を実施し、平成28年度は138頭（これまでの累計348頭）を捕獲しました。

従来、日没後はエゾシカが囲いワナに入ったかが把握できず夜間に捕獲できないことが課題でした。

平成28年度はライトアップにより夜間捕獲に取り組み、前年比で34頭増の成果が得られましたが、ライトアップの方法に問題がありワナ内への進入状況が十分に把握できないという課題が残りました。

また、当署も参画している「根室市鳥獣被害防止対策協議会」が実施した落石岬での銃による捕獲に保安要員として参加し102頭の捕獲を実施。

### 【平成29年度の取組結果・成果】

#### ＜効率的な捕獲の実施＞

○日没後における捕獲効率の向上

赤外線照射装置を搭載した遠隔操作カメラを設置して捕獲。

囲いワナ内部が詳細に把握できるため、最も多く入っているタイミングで捕獲することが可能となり、少雪によりエゾシカがあまり越冬のために集まってこないなど厳しい条件の中でも、82頭捕獲。

○雄シカ捕獲用囲いワナの設置

イチイ純林保護林内に雄シカが高密度で越冬しているとの情報があったことから、隣接地に新たな囲いワナを設置。囲いワナは、雄シカの捕獲を想定し囲い部をコンパネで強化するとともに、内部で暴れシカが傷つけあわないよう他の囲いワナよりも小型化。

雄シカは非常に警戒心が強いため、捕獲実績は1頭のみ（ほかに雌8頭）。

また、他の手法として、くくりわなによる捕獲も実施。12頭捕獲。

○新たな捕獲箇所の検討

捕獲を効果的に実施するため、長節地区以外の国有林で捕獲に適した候補地を選定したが、電源の確保が困難であり捕獲システムの改良が必要。

#### ＜民国連携によるエゾシカ移動範囲調査の実施＞

根室では関係機関がそれぞれ囲いワナを設置しているが、地域に生息するエゾシカの移動範囲を踏まえて囲いワナを適切に配置する必要があるため、関係機関が連携してそれぞれの囲いワナから雌幼獣1頭に目印の首輪を装着し放獣、移動範囲の調査を開始。

#### ＜被害の把握による評価方法の検討＞

捕獲事業を評価・分析するために、イチイ純林保護林内に標準地（0.1ha）を設定し、詳細な食害状況の調査を開始。 ※調査対象木124本中、被害木89本（うち新規被害木20本）

夜間の囲いワナ内画像



雄シカ用囲いワナ



装着した首輪



イチイ被害木



### 【今後の取り組みで目指すところ】

①今年度選定した捕獲候補地を含めて効率的な捕獲実施場所を検討し、国有林内のエゾシカを200頭/年捕獲することを目指します。

②イチイ純林保護林に設定した標準地の調査を継続し、被害状況を把握することにより捕獲事業の効果を検証していきます。

### 【今後に向けて】

今後も、地域と連携してエゾシカ被害の減少に向けて取り組みを推進。